

平成27年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 授業改善と3年間を見通した進路指導 学習意欲と基礎学力向上のための取組をさらに充実させ、3年間を見通した進路指導と粘り強い個別指導を実践して、生徒の進路実現を図る。	① 復習や予習を促す授業改善や選択7限目授業の実施によって家庭学習の習慣化を図る。	授業以外の学習時間が「90分以上」の生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	D 42.0% 1年 44.2% 2年 41.1% 3年 40.6%	・前期より2%減、ただ昨年度より6%上昇している。家庭学習時間の平均は1時間31分で、90分を超えている。3時間以上の生徒の数より30分未満の生徒が多く、課題である。 ・家庭学習習慣化のため、放課後学習等を活用していく
	② 公開授業や相互参観授業を活用し、わかりやすい授業のための改善に取り組む。	研究授業や教員相互の参観授業に参加した回数が（後半期で） A 3回以上の割合が 80%以上 B 2回以上の割合が 80%以上 C 1回以上の割合が 80%以上 D 1回以上の割合が 80%未満	C A 61.1% B 72.2% C 91.7% 2.42	・何回も授業参観し、授業改善に活かしている教員もあり、学校全体に広めていくことが大事である。 ・今年度よりタブレット端末を利用した授業が可能になり、研修会を企画し、生徒がより興味を持てる授業を確立させ、授業改善に活かす。
	③ 授業評価票などにより、一層の授業改善を図る。	授業を理解できるとする生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	B 79.5% 1年 78% 2年 75% 3年 85%	・「よくあてはまる」の生徒が13%、「ややあてはまる」66%であり、しっかりと理解できるよう授業改善が必要である。 ・ICT活用や少人数授業を推進したい。 ・「よくあてはまる」の生徒の割合を増やす。
	④ 総合的な学習の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	B 72.9% (2年生インターンシップ実施)	・2年生には7月に全員インターンシップを体験した。「充実感があった」「ためになった」等のコメントがあった反面、「きつすぎた」「予想以上にハードだった」もあり、今後の進路指導に生かして生きたい。 ・インターンシップ事業を実りの大きいものにするため事前事後指導を徹底する。
学校関係者評価委員会の評価	家庭学習時間を確保するのは、教員の工夫も必要である。教科指導こだわらず、あらゆる場面で学習していく姿勢が重要となる。生涯学習につなげてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	生徒にとって興味関心を持てる授業実践をめざす。そのためにもICT活用など、教員のスキルアップをはかる。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 基本的な生活習慣の確立 遅刻欠席者をさらに減らし、挨拶を励行させ、節度ある服装容儀を維持させるなど、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 4人以下 B 5人～7人 C 8人～10人 D 11人以上	B 4.47人 1年 1.22人 2年 1.33人 3年 1.92人	・昨年度末5.19人に対して0.72人の減である。概ね良好であるが、限られた生徒に遅刻が目立っている。 ・朝学習が定着しており、今後も続けていく。 ・担任は、保護者としっかり連携をつくり、きめ細かい指導をめざす。
	② 欠席の防止 きめ細かな指導や保護者との連携等により、欠席を減らし、学習意欲の向上を図る。	欠席者が1日に A 12人 未満 B 12人～20 C 21人～30人 D 31人以上	B 18.86人 1年 9.48人 2年 4.71人 3年 4.67人	・昨年度末14.01人に対して4.85人の増である。 ・1年生には、不登校傾向の生徒が多く、その分増加しているが、中学校ではほとんど登校できていなかった生徒が、本校で登校できている例もあり、粘り強い対応が必要である。スクールカウンセラーや外部機関との連携も大事にしたい。
	③ しっかりと身だしなみが身に付くようにする。	私は（生徒は）きちんとした頭髪・服装をしている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	(A+B) 85% 1年 83% 2年 87% 3年 85%	・昨年度90%であり、5%減少した。 ・生徒課を中心にして、各学年できめ細かい指導を行っている。とくに、行事等の正装ではきちんとできている。 ・生徒の規範意識をしっかりと育てる。
	④ 悩みや課題を持つ生徒（保護者）に対してきめ細かな対応と支援を行う。	教師や相談室は、悩みの解決に向けて A 支援してくれた B まあまあ支援してくれた C あまり支援してくれなかった D 支援がなかった。	(A+B) 72% 1年 71% 2年 68% 3年 79%	・昨年度75%であり、3%減少した。 ・保護者の回答では85%が「相談にきちんと対応してくれる」である。 ・担任は、面談等でよりきめ細やかな対応をめざしたい。
学校関係者評価委員会の評価	遅刻者や欠席者への対応はしっかりできており、今後も続けて欲しい。 あまりにも数字にこだわるのではなく、ひとりひとりの事情に合わせて対応して欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	2人担任制のメリットを最大限に利用し、保護者との連携も密にしていくことを今後も続ける。 スクールカウンセラーや外部機関のアドバイスを活かし、きめ細かい指導を行っていく。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 部活動の充実 全員加入による部活動の一層の活性化を目指し、体力と情操の向上、学業継続への意欲喚起を図る。	① 新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	1・2年次生の部加入率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	D 64.4% 1年 62% 2年 67%	・前期は77.5%（1年74%、2年81%であったが、残念ながら、1年生に退部者が多数出てしまい、13%減となった。 ・運動部（1年30%、2年36%）文化部（1年31%、2年31%）であり、部活動は学校活性化のため重要なので、再入部も含めた働きかけを考えたい。 ・家計や学費のため、アルバイトを希望する生徒が増加傾向にあり、放課後や休日の過ごし方も考えていく必要がある。
	② 全員が部活動に主体的・積極的に取り組むように、壮行式等を利用して常に情報発信を繰り返す行う。	部活動について A 休まずに参加している B ほぼ休まずに参加している C ときどき参加している D 殆ど参加していない	(A+B) 65% 1年 55% 2年 63% 3年 75%	・昨年度70%であり、5%減少した。 ・1年生の退部者が目立ち、活動面が低く出た。 ・女子バドミントン部は全国総体で、団体3位・個人3位という輝かしい成績であった。また、近年女子の文化部加入率も高まっており、明るい話題を校内に持ち込んでいる。
	③ 積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について A 活動日は必ず1回は顔を出し、活動内容等を指示する B 活動を見に行けないときは必ず活動内容等を指示する C あまり活動を見に行っていない D 殆ど見に行っていない	(A+B) 65%	・年々多忙になり、平日放課後の教員の時間確保が大変である。教員の中には部活動を兼任している者もあり、時間確保を考えたい。 ・部活の顧問は生徒にとって第二の担任でもあるので、生活指導面も含めて、毎日声かけをお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動加入率の低下が気になる。ただ、2年連続女子バドミントン部が全国3位となっているのは、大変素晴らしいことだ。 学校が盛り上がるのは部活動の力が大きいのでがんばってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	近年、アルバイト申請する生徒が増えているため、部活動を続けられない生徒がいるが、運動部にこだわらず、文化部加入者を増やし、部活動を通じて社会性をしっかりと身に付けさせたい。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域交流の促進による学校の活性化 生徒のボランティアや学校開放及び情報発信などにより地域交流を促進し、地域や保護者に信頼され評価される学校づくりを行う。	① ホームページの更新を分掌ごとに行うとともに、広報誌等による情報発信も行う。	更新や発信の回数が半期で A 100回以上 B 70回～99回 C 40回～69回 D 40回未満	B 95回	・昨年度同時期136回から41回の減少。 ・本校ホームページを見る生徒は20%、保護者24%であり、魅力的なものに変更していく必要がある。 ・ホームページを一新し、閲覧者を増やし、学校のことをいろんな人に知ってもらおう機会としたい。
	② 福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティアなど地域との交流に関する事業に A 積極的に参加している。 B 充分とはいえないが、おおむね参加している。 C あまり参加していない。 D 全く参加していない。	(A+B) 54% 1年 55% 2年 50% 3年 57%	・昨年度52%であり、2%増加した。 ・生徒会メンバーや吹奏楽部・JRC部は年間数回にわたる活動を行っており、地域住民からも評価を得ている。 ・全校挙げて、清掃ボランティアも行い、継続的なものにする。
	③ 文化祭などの学校行事や学校開放の情報が地域住民に行き渡るようにする。	地域住民が学校の行事等に参加しやすくなるための体制が、 A 十分に整っている。 B おおむね整っている。 C あまり整っているとはいえない。 D 全く整っていない。	(A+B) 78%	・昨年度75%であり、3%増加した。 ・文化祭では、例年の献血事業も行き、沢山の保護者や地域住民の参加を得た。また、教育ウィークでの働きかけを行ったが、参加者は少なかった。今後も情報提供を続けたい。
	④ 図書館を開放し学校と地域住民の交流を促進する。	地域住民が図書館の行事に参加する数が A 50人以上 B 30人～49人 C 20人～29人 D 19人以下	A 53人	・昨年度同時期34人から19人の増加。 ・図書館行事も地域にしっかりと定着し、学校に足を運んでくれる方が増えている。さらに、地域に根ざした学校をめざしたい。
	⑤ 指導に関する情報交換や学校行事への参加等を通じて、保護者との連携を深め、保護者の学校への信頼を高める。	学校の指導に対する保護者の満足度が A 85%以上 B 75%～84% C 65%～74% D 65%未満	B 76% 1年 78% 2年 68% 3年 81%	・昨年度90%であり、14%減少した。 ・前期は75%（1年77%、2年68%、3年79%）である。 ・大きく減少しているため、改善が必要である。 ・情報提供をこまめにする。（メール即時配信システムの活用）
学校関係者評価委員会の評価	ホームページを閲覧する保護者が少ない。 ボランティアなど地域住民としっかり繋がっていることは素晴らしいことだ。図書館を今後も住民に開放して欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	新年度より、ホームページを更新したい。 地域行事やボランティア作業などの参加を続け、開かれた学校作りをめざす。			